

小平市公共施設マネジメント推進委員会

日 時 令和元年6月10日 午後2時00分～午後3時45分

場 所 福祉会館3階 第1集会室

出席者 推進委員 5人（欠席2人）

出席課 13人（行政経営担当部長、政策課長、財政課長、行政経営課長、公共施設マネジメント課長、公共施設マネジメント課長補佐2人、公共施設マネジメント課担当係長、公共施設マネジメント課主任、契約検査課長、施設整備課長、教育総務課長、教育総務課長補佐）

傍聴者 6人

1 開会

2 公共施設マネジメント推進計画進行管理の報告について

資料1の概要を説明した。

D委員:資料1①の実施状況欄について、検討を実施して終了したものについて「実施（終了）」と記載されているが、工事まで実施したものと捉える事もできて混乱するので、何が終了していて、何が進行中なのか分かるようにした方がよいと思う。

A委員:平成30年度の進捗状況において実施が終了したものについては、令和元年度の進捗状況には記載されないということになるが、例えば「(仮称)PPP/PFIガイドラインの策定」の項目であれば、ガイドラインの策定は終わっているが、今後PPP/PFIを検討する際は別項目として記載されるようになるということか。

公共施設マネジメント課長補佐:PPP/PFIガイドラインについては、これからの公共施設の建て替えの際に整備の手法を検討するための手引として策定したもので、冊子として形となったので「実施（終了）」としている。今後これを用いて検討していくということになる。

公共施設マネジメント課長補佐:単年度の取組として実施し、計画として終了した項目については「実施（終了）」、単年度の取組として実施し、その後も継続して取り組む必要がある項目は「実施（進行中）」としている。個別施設の検討の項目については建物が建て上がるまでを管理するので、出来上がった時点で「実施（終了）」とし、次年度の予定は削除することとしている。

平櫛田中彫刻美術館記念館及び小平第八小学校校舎については、「更新等を行わない」と判断したため、「実施（終了）」とし、令和元年度の進捗状況には記載していないものである。

リサイクルセンターについては、平成30年度に改築が終了したので、「実施（終了）」とした。

A委員:令和元年度の進捗状況については、こういう項目があるということを示したのか。

公共施設マネジメント課長:主管課に年度当初の目標等を記載してもらったもので、現段階では項目出しという状況である。

A委員:平成30年度の進捗状況で「実施（進行中）」となっているものについては、令和元年度の進捗状況に記載されているという事でよいか。

公共施設マネジメント課長補佐:基本的に「実施（進行中）」のものは全て記載している。それに加えて個別施設の検討の中で「新規」と記載されているものは新たに更新等の適否の判断を行うことになっている施設で、追加で記載している。

E委員:8ページの「全庁的なノウハウの蓄積とモチベーションの向上」の項目の実施内容として、小田原市による研修会を開催したとあるが、どのような内容であったのか。

公共施設マネジメント課長補佐:小田原市では公共施設マネジメントを全庁的な体制で取り組むことによって、職員一人ひとりが公共施設マネジメントを意識できるようにしている。例えば庁内に公共施設マネジメントニュースを発信したり、施設所管課が困っていたらすぐ相談に乗ったりと、小平市においても参考にできることが多く、小田原市の担当職員を研修講師として招いたものである。研修受講者の感想として、公共施設マネジメントに興味を持ったり、どういふものかよく分かったというものもあり、職員のモチベーションの向上を図る事ができたのではないかと考えている。

E委員:この研修会は誰を対象としたものか。

公共施設マネジメント課長補佐:全職員を対象とした。

A委員:参加者は何名か。

公共施設マネジメント課長補佐:40名程度であった。

E委員:この研修会を受けて小平市に取り入れたものはあるか。

公共施設マネジメント課長補佐:具体的に行ったものはまだないが、庁内に積極的に発信したり、所管課と密接に連携を取り合っていきたいと考えている。

E委員:9ページの「予算編成・事務執行のあり方の検討」について、包括的管理業務委託抜きでの予算編成・事務執行のあり方の検討はできないということか。

公共施設マネジメント課長補佐:包括的管理業務委託を行うことにより、予算をまとめる事ができないかと考えていた所であるが、包括的管理業務委託は課題が多く実施を見送っており、この検討についても実施を見送ったものである。

A委員:維持管理・保全等の方策のまとめ方としては、終了したものであれば具体的に行った内容や、今後どのように生かしていくかということや、また、検討中なのであればその旨を記載してほしいと思う。

「予算編成・事務執行のあり方の検討」に関しては、終了したのであれば最終的なまとめを記載してほしい。緊急性判断一覧表を作成して、次年度予算査定の参考資料とすることを今後も続けていくのか、それとも違うやり方を行っていくのか。

公共施設マネジメント課長補佐:緊急性判断一覧表を作成して、次年度予算査定の参考資料とすることを現在も行っており、継続していきたいと考えている。また今後なるべく予算に反映されるような取組を考えていきたい。

A委員:予算編成に関与する体制であれば、どのような体制なのか記載してほしい。実施（終了）したもののについては、次回までに詳細を教えてください。

B委員:平成30年度の延べ床面積の縮減状況について、学校校舎の増築や学童クラブの新築を行

ったようだが、市内小学生と学童クラブの児童数の過去の推移と今後の推計を示してほしい。それを見れば子どもの総数が増えているのか、学童クラブに通う割合が増えているのかわかると思う。

公共施設マネジメント課長補佐:現在その数字を把握していないため、今後そのような資料の作成を検討していきたい。

A委員:人数が増えたから新築、増築したのではないか。

教育総務課長補佐:詳細は手元に持ち合わせていないが、小学生は毎年数十人から百人程度の増加傾向にある。そのため中学生は現在増加傾向にはないが、いずれは増加していく可能性がある。

行政経営担当部長:児童数の増加に合わせて学童クラブの希望者数も増加していると聞いている。その結果定員を超える場合には、新築したり、教室を借りたりして対応している。

D委員:延べ床面積の目標値として、第1期はプラスマイナスゼロとしているが、その期間に目標耐用年数を迎える施設数は少ないとなると、どうやって目標を達成する予定なのか。

公共施設マネジメント課長:具体的な施設は決まっていないが、複合化等による中で最大限床面積の削減を検討していきたい。

D委員:不足一機能に対して一機能を補充していくといつまでたっても減らせないと思う。例えば学童クラブであれば放課後のみという限られた時間でしか使用していないので、考え方を考えていく方法もあるかと思う。このままでは、仕方ないといって増え続ける状況になってしまうと思う。

行政経営担当部長:これからの公共施設マネジメントの考え方として、一つの施設を単機能ではなくて複数の使い道で使っていくということが必要であると思う。現在の利用者にも配慮しながら、共用化等の工夫をしていかななくてはならないと思う。

A委員:財政的に厳しくなるので公共施設マネジメントをしていこうとなっていると思うので、そこを忘れて仕方なく床面積を増やすということは間違っていると思う。増やさないで使う工夫や、必要な短期間だけ使える建物にするなど考えていく必要がある。

次回までに進捗状況調査票の詳細と、市内小学生と学童クラブ児童数の過去の推移と今後の推計を示してほしい。

C委員:「更新等を行わない」と判断した平櫛田中彫刻美術館記念館や小平第八小学校については、いずれ何らかの手立てを打たないといけないと思うが、その計画はあるのか。地域によっては児童数が増えている所もある。例えば校庭に仮校舎を作った場合は延べ床面積に入るのか。学校について検討する際は色々な面を考慮しながら検討して行ってほしい。

公共施設マネジメント課長補佐:小平第八小学校については更新等を行わず延命化するという判断を行ったが、公共施設マネジメント推進計画はローリングで見直しを行うこととしており、その際には新たな目標耐用年数で記載されるようになる。平櫛田中彫刻美術館記念館についても、記念館自体が美術品であるということで、建て替え等を行わず安全性を確認した上でこのまま使い続けると判断したものである。目標耐用年数を推定できない建物でもあるので、何年かごとに建物の状況を確認していくこととなる。施設の増築に関しては、施設全体で考えた方がいいと思うので、主たる部分の更新等の適否の判断を行う際に一緒に検討していくことになる。

3 (仮称)中央公民館及び健康福祉事務センターの更新等に関する基本計画・(仮称)小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画に関する検討状況について

資料2の概要を説明した。

A委員:資料2①の「6 経費」について、ここではイニシャルコストしか記載していないが、実際には維持管理費がかかるので、それを想定して市民に説明できるようにしておかないといけない。特に小川エリアは再開発ビル内なので、今までの公共施設と比べると維持管理費が高くなると思う。中央エリアについても、今まではあまり維持管理費をかけていなかったの、高くなると思う。

B委員:新しい施設は割と規模の大きなものになると思うので、公共施設マネジメントの視点から、こういうテーマで計画・設計を行ってほしいというきちんとしたストーリーを作っておかないと、普通の公共施設の手順で作っていただけだと維持管理費の部分で縮減できないということになってしまうと思う。高層の建物を作ると面積的には効率がいいかもしれないが、空調やエレベーター等の維持管理費がかかってしまう。どういう所にマネジメントのポイントを置いて考えるのかということも含めて市民に考えてもらう機会を提供してもらいたいと思う。

D委員:パブリックコメントや市民への情報発信の仕方についても、これまでのやり方から変えていかなければならないと思う。市のホームページで広報しても、ホームページは自分の用事がない限りあまり見ないので、今回を皮切りに新しい情報発信の仕方を考えていったらいいと思う。午前中も別の自治体で官民連携の話聞いていたが、最初の計画から建設費が膨らんでしまい、運営費が足りないという話もあった。せっきく建物が建っても運営面でどうしていくかという所に市民の力が必要になるのではないかと思うので、早めに運営面の検討を始めてもいいと思う。

B委員:具体的な方策は難しいと思うが、今回が今後の小平市のパイロット的な案件になると思うので、真剣に検討できるといいと思う。

C委員:これまでのデザインプロジェクトにおける市民の意見が取り入れられていることが嬉しく思う。検討を重ねてこういった形にまとめてもらったと思うが、あれがほしいこれがほしいと言うだけでなく、その後の維持管理のことについても市民に考えてもらうことが必要だと思う。

A委員:今後オープンハウスや説明会を行う際は、受益者負担についても検討してほしい。

公共施設マネジメント課長:受益者負担については「7 事業手法(整備・運営)」において言及している。今回固有の問題というより市全体の問題と認識している。

A委員:既存の利用団体に配慮することも大事だが、それ以外の団体や市民も利用できるようにリーススペースの活用も検討して欲しい。

「9 スケジュール」において、いきなり基本計画を策定する予定になっているが、市民の意見を聞いて基本構想をしっかり立てた上で基本計画を作らないとおかしなものになってしまう恐れがある。

公共施設マネジメント課長:昨年度からの市民参加を踏まえて基本計画の骨格として作成したものが今回の資料2①であり、これに今後さらなる市民参加、パブリックコメントを経て肉付けをしていく予定である。

A委員:まだ骨子の段階かもしれないが、もっと詳細に記載しないと基本計画にはならないので、条件設定をしっかり決めていく必要があると思う。

公共施設マネジメント課長:公民連携の手法をどうするかということにつながるが、もし仮に設計段階から民間の力を入れるとなると、各部屋の面積まで詳細に記載してしまうと民間の創意工夫の余地を狭めてしまうこともあるのではないかと考えているので、もう少し方向性を決めた上で記載方法を検討していきたいと考えている。

A委員:細かい面積までは必要ないが、条件設定はしっかりしてほしい。

B委員:「8 跡地の用途」について、今回に限らず、公共施設の建て替えに際して駐車場をどうするかということは、限られた敷地で複合化する中でネックとなるところであると思う。車の利用を抑制したいのか、それとも推奨したいのかによって考え方が変わってくると思う。例えば社会実験のような形で有料化したりできないのか。

A委員:平日の昼間は無料で、夜間と休日は有料といった時間帯によって変えるということも可能だし、様々な工夫ができると思うので検討をお願いしたい。

行政経営担当部長:社会実験ということは想定していなかったもので、どういうことができるのかということは本委員会の意見を聞きながら考えていきたいと思う。これまでワークショップやヒアリング等の市民参加の中でも建物そのもの話もさることながら、移動手段や駐車場についても意見が出ていた。新しい施設を作ると50、60年使うことになると思うが、そうするとその段階での交通環境というものは現在と激変していると思うが、やはり現時点では市内での移動ということをすごく気にしている市民が多いと思っている。すぐに車の利用を抑制するという方向は難しいと思う。中央エリアは特に全市から利用があるという性格もあるので、一定の駐車場を確保しなければならないと考えている。

E委員:小平元気村おがわ東については福祉的機能、教育的機能を中心に引き続き活用するとあり、「市民活動支援センターあすぴあ」は公民館や図書館との相乗効果を目的として小川駅西口公共床に移すとしている。「男女共同参画センターひらく」については今後検討するということがあるが、他の自治体では同様の理由で男女共同参画センターを複合施設に入れている例もある。私が見学した限りでは「ひらく」は資料を並べて貸出をしているだけのようであったが、今の活動内容から小川駅西口公共床に移るのがよいのか、それとも落ち着いた環境にあった方がよいのか伺いたい。

公共施設マネジメント課長:現状は認識しているが、まだ具体的な方向性は決まっていないので今後検討していきたいと考えている。

公共施設マネジメント課長補佐:小平元気村おがわ東については、1972年(昭和47年)に建築されており、目標耐用年数までまだ期間がある。小学校から用途を転用したという経緯もあり、落ち着いた環境で教育や福祉的機能となじむ性格にあると考えており、引き続き活用していきたいと考えている。

4 平成30年度における劣化診断の調査結果について

資料3の概要を説明した。

A委員: コンクリート中性化から目標耐用年数を推定しているが、元々の設計基準強度が建設当時の基準で作られており、現在の基準で見ると足りていない。昭和45年以前は鉄筋が丸鋼がほとんどで、なおかつ柱や梁の中の鉄筋の間隔が広い。そのため中性化では問題ないが、耐久性から考えると非常に疑問があるので、中性化のみで判断してはいけないと思う。その当時の建物は、長寿命化しても40年から65年が一般的で、一律に80年ではなく、個別に判断していく必要がある。

5 令和元年度における更新等の適否の診断について

資料4の概要を説明した。

A委員: 保育園や学校や学童クラブについては全体を見て個々を考えないといけないと思う。

D委員: 全体の中でどれだけ残すかという計画が先にないと判断するのは難しいと思う。

公共施設マネジメント課長補佐: 昨年度、小平第八小学校と小平第十一小学校の更新等の適否の判断を行う際に、学校の配置についての大きな考え方について示したところである。公共施設マネジメント推進計画では小学校19校を14校に、中学校8校を7校にという目安を示している。今後保育園や学童クラブについても関係課と情報共有しながら考えていきたい。

政策課長: 公立保育園については、現在、保育の主管課で「公立保育園の運営のあり方に関する方針」の改定を行っているところであり、その方針と整合性を図りながら進めていくことになると思う。

A委員: 完成したら報告してほしい。

B委員: 資料4の表を地域ブロックごとに分けたものを作ってほしい。地域のブロックの中での進行状況がわかるようなものがあると市民に検討してもらう際にも理解しやすいと思う。

行政経営担当部長: 昨年度、長期的に見た学校の配置のあり方について検討してきたが、資料として表すとなると難しい部分もある。全体の中でどの部分を検討しているのかわかりにくい状況ではあると思う。どういう表し方をしたらよいかを含め今後検討させていただきたい。

D委員: 神奈川県秦野市の資料が参考になると思う。

A委員: グルーピングした上で、期別に色分けすると分かりやすいと思う。

C委員: 床面積を減らすという目標から、学校を中心とした複合化を検討していくということだが、小平第十一小学校はその最初のケースになるので、市民の意見を聞きながら進めてほしい。

市民参加で出た意見を見ていると、意外と高齢者の意見が少なかったように見えるが、参加者の年齢層はどの様であったのか。

公共施設マネジメント課長: 小平第十一小学校については基本計画の策定に向けて今後地域住民と意見交換していく予定である。その中では近隣施設の複合化を前提として話をしていきたいと

考えている。

公共施設マネジメント課長補佐:以前行った市民意見交換会等では高齢者の参加が多く、若者の声はこちらから積極的に行かないと聞くことができないというところもあり、中央・小川デザインプロジェクトにおいては小・中学校への出前授業を行う等で、今まで聞くことができなかった世代に対して注力していった。ワークショップは高齢者の参加が多かったので、高齢者の意見ももちろん聞いている。

6 その他

B委員:公共施設マネジメントニュースを読んで、小川駅と公共床との連続性についての記載がなかったが、どこかで検討はされたのか。利用率にダイレクトに影響するので、専門家も交えた検討を行ってほしい。

公共施設マネジメント課長補佐:駅舎との連続性については再開発に関連する部分であり、市の公共施設マネジメントの枠外になっているため、ワークショップのテーマとして扱うことは難しかった。参加者からは連続性についての意見も出ていて、把握はしている。再開発組合との窓口となる地域整備支援課にも伝えている。

B委員:1、2階に入る商業施設の方々もにぎわいという点には興味があると思うので、いずれかの時点で接点を積極的に持ってもらいたい。

公共施設マネジメント課長:地域整備支援課と緊密に連携しながら進めていきたいと考えている。

A委員:4、5階であるとは行きづらいので、エスカレーターを設置等についても考えてほしい。

公共施設マネジメント課長補佐:エスカレーターもエレベーターも設置される予定である。

行政経営担当部長:駅舎から再開発建物に直結するかどうかというところは鉄道事業者との関係もある。費用についても市の負担が大きくなるということもあるので、総合的に検討しているところである。

A委員:お金でなくてデザインで解決できるようにしていただければと思う。

7 閉会